

地域ケア会議推進に係る全国担当者会議

平成25年9月20日

地域ケア会議の運営に関する方法

東京学芸大学

高良 麻子

1

地域ケア会議の設置方法

1. 地域ケア会議の目的や機能を共有する

地域ケア会議の目的や機能およびその重要性を地域の関係者で共有する。

市町村の役割: 地域包括支援センターや地域の関係者に地域ケア会議の目的や機能を周知する。地域包括支援センターの役割を果たせるようにバックアップする。

地域包括支援センターの役割: 地域ケア会議の目的や機能を地域包括支援センター同士で共有し、地域の関係者に周知する。

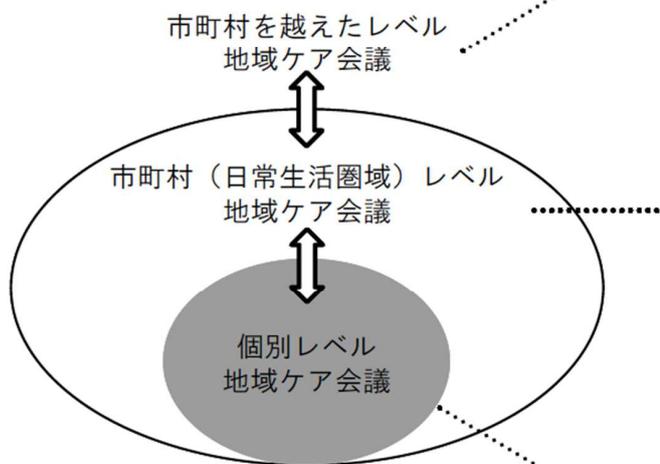
2. 地域ケア会議の全体構成像を構想する

・人口規模や地域特性、地域包括支援センターの設置状況、これまで開催してきた会議や研修会などをもとに、地域ケア会議の全体構成像を構想する。

・レベル、会議の目的、機能等を手がかりに、各レベルの地域ケア会議の総体として5つの機能を果たすことができるように考える。

市町村の役割: 市町村が主体となり、地域包括支援センターなどと連携して構想する。

地域ケア会議の構築例(日常生活圏域と市町村の範囲が同じ場合)



設置範囲	市町村を越えたレベル
会議目的	地域課題の把握および対応など
有する機能	地域包括支援ネットワーク構築機能、地域づくり・資源開発機能、政策形成機能など

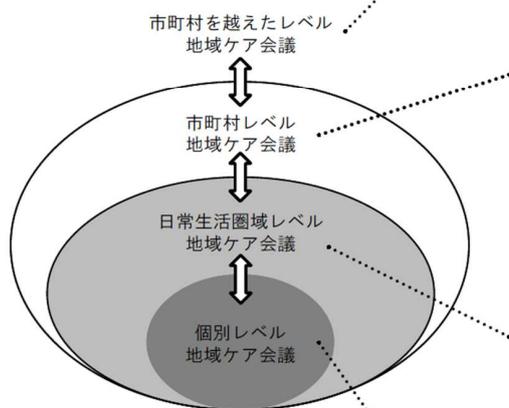
設置範囲	市町村(日常生活圏域)レベル
会議目的	地域課題の把握および対応など
有する機能	地域包括支援ネットワーク構築機能、地域課題発見機能、地域づくり・資源開発機能、政策形成機能など

設置範囲	個別レベル
会議目的	個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の把握など
有する機能	個別課題解決機能、地域包括支援ネットワーク構築機能、地域課題発見機能など

「地域ケア会議運営マニュアル」p34

3

地域ケア会議の構築例(日常生活圏域と市町村の範囲が異なる場合)



設置範囲	市町村を越えたレベル
会議目的	市町村を越えた地域課題の把握および対応など
有する機能	地域包括支援ネットワーク構築機能、地域づくり・資源開発機能、政策形成機能など

設置範囲	市町村レベル
会議目的	市町村における課題の把握および対応など
有する機能	地域包括支援ネットワーク構築機能、地域課題発見機能、地域づくり・資源開発機能、政策形成機能など

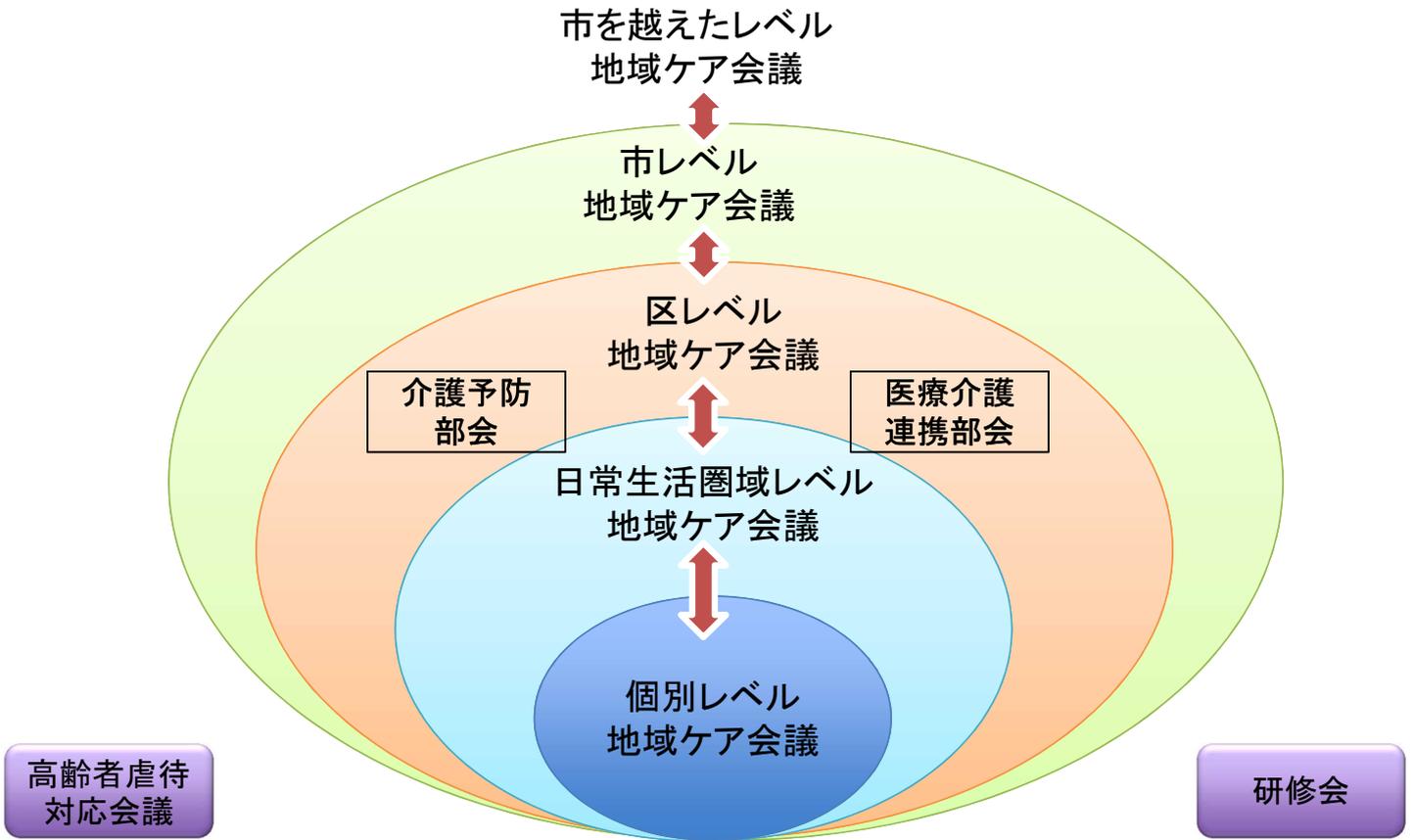
設置範囲	日常生活圏域レベル
会議目的	日常生活圏域における課題の把握および対応など
有する機能	地域包括支援ネットワーク構築機能、地域課題発見機能、地域づくり・資源開発機能など

設置範囲	個別レベル
会議目的	個別課題の解決、介護支援専門員による自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の把握など
有する機能	個別課題解決機能、地域包括支援ネットワーク構築機能、地域課題発見機能など

「地域ケア会議運営マニュアル」p36

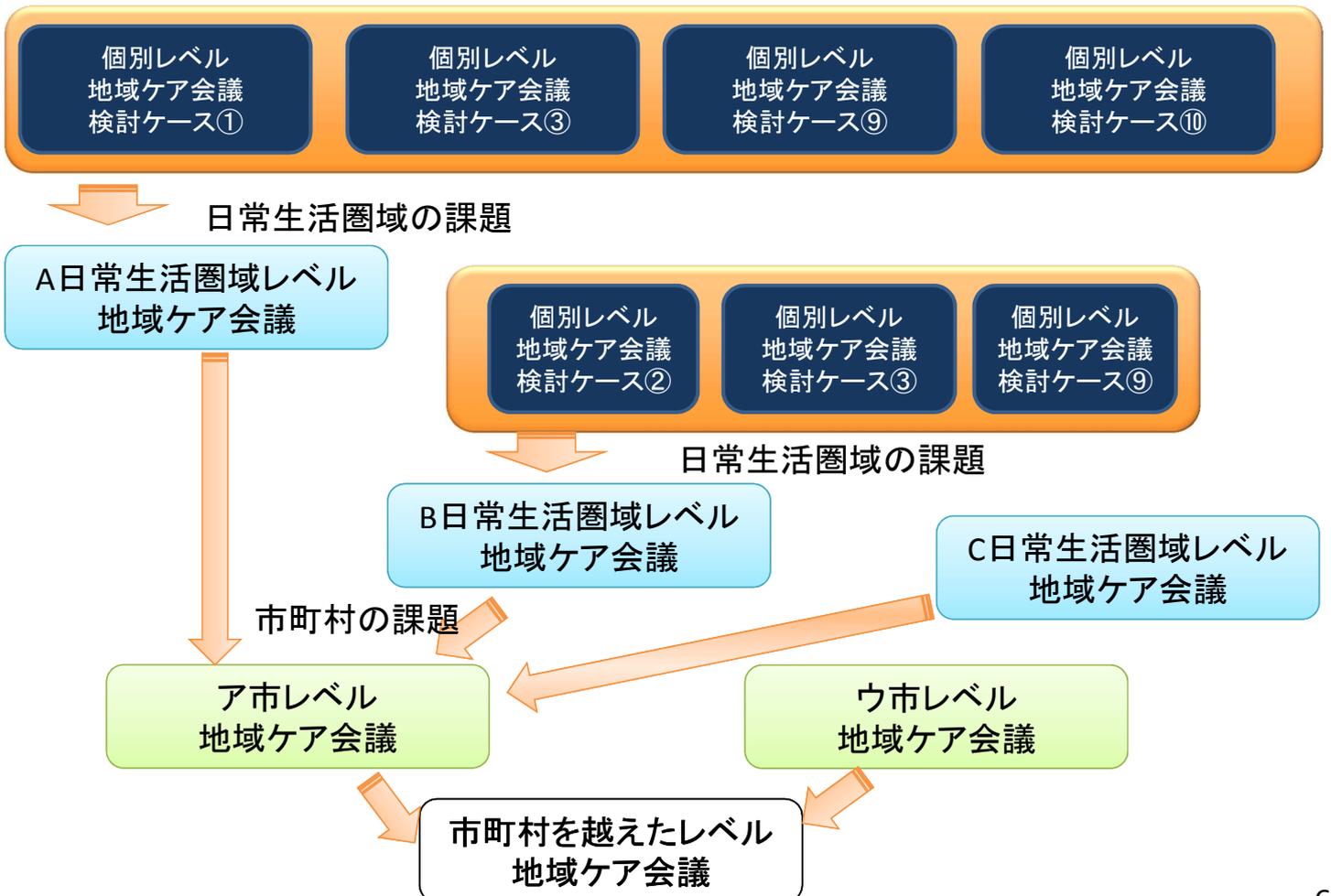
4

地域ケア会議の構築例（規模の大きな市の例）



5

地域ケア会議の各レベルの関係性例



6

地域ケア会議の設置方法

3. 個々の地域ケア会議について検討する

地域ケア会議の目的や機能を確認したうえで、それらを達成するために最も適切だと考えられる運営方法などを暫定的に決定する。

- ・主催者
- ・予算
- ・開催頻度(定例・非定例)
- ・会議時間
- ・会議参加者
- ・個人情報の取り扱いに関する基本方針 など

市町村の役割: 地域包括支援センターと連携して検討する。中でも、個人情報の取り扱いについては、市町村としての方針を明示する。

地域包括支援センターの役割: 市町村と連携して検討する。

「地域ケア会議運営マニュアル」p39

7

地域ケア会議の設置方法

4. 地域ケア会議の設置に関して周知する

- ・地域ケア会議に関係する組織や人々に、市町村独自の地域ケア会議について周知する。
- ・地域ケア会議に関する研修会等を開催する。(地域ケア会議活用推進等事業の活用など)

市町村の役割: 市町村全域で周知する。地域包括支援センターが活動しやすいようにバックアップする。

地域包括支援センターの役割: 担当圏域で周知する。

「地域ケア会議運営マニュアル」p39

8

地域ケア会議の構築方法

1. 実現可能な地域ケア会議を開催する

実現可能性が高く、かつ必要性の高い目的の地域ケア会議から開催する。

市町村の役割: 地域ケア会議を主催する。地域包括支援センターが主催することができるようにバックアップする。

地域包括支援センターの役割: 必要に応じて地域ケア会議を主催する。

2. 開催した地域ケア会議を評価し構築を計画する

・各地域ケア会議の目的や機能の達成、具体的な成果、運営方法などについて地域ケア会議を評価し、今後の展開を計画する。

・地域ケア会議の検討内容や成果などを、個人情報に留意して、参加者のみならず地域の関係者等にフィードバックする。

市町村の役割: 地域包括支援センターと連携して、地域ケア会議を評価し、展開を計画する。フィードバックする。

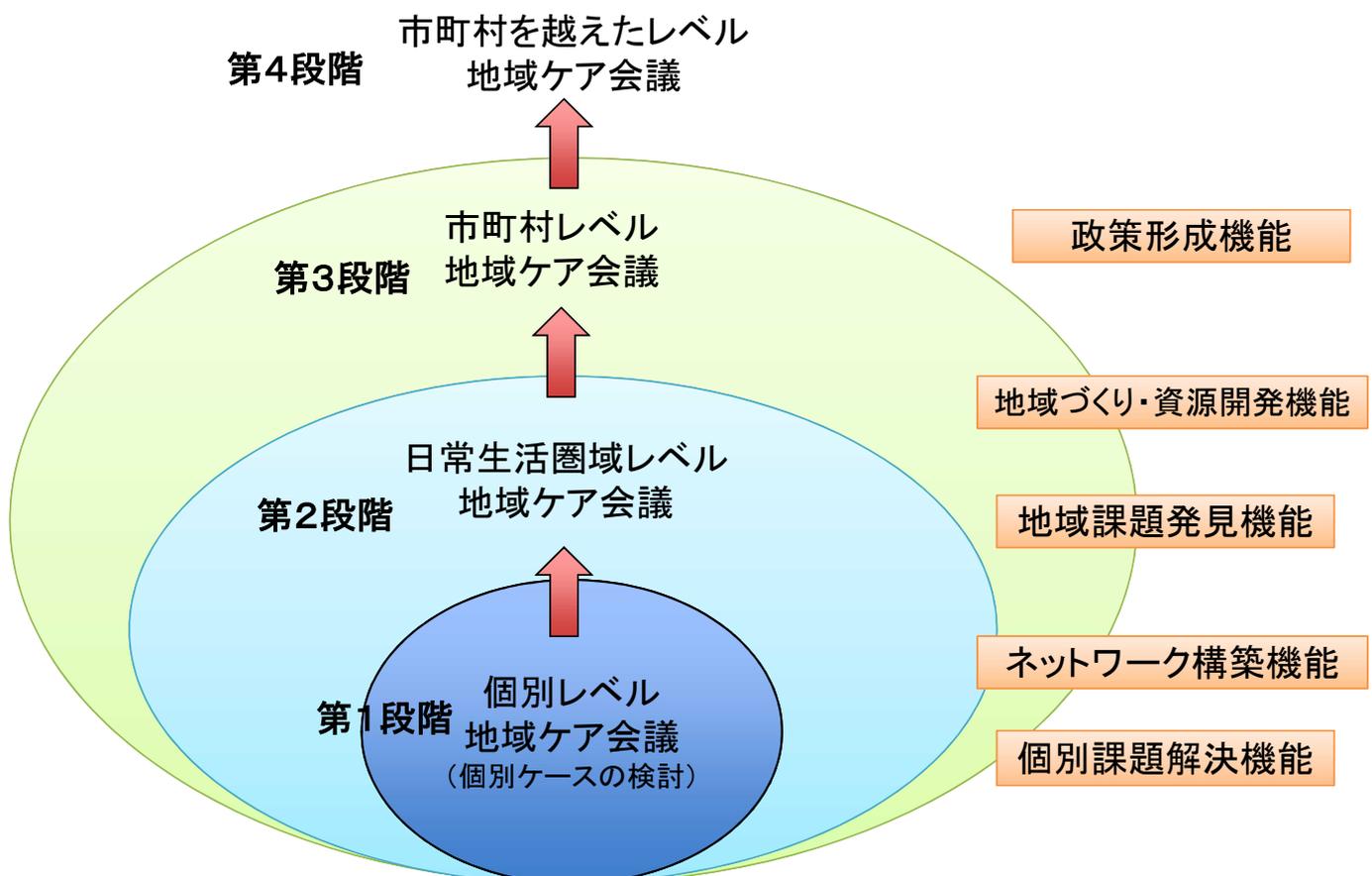
地域包括支援センターの役割: 市町村と連携して、地域ケア会議を評価し、展開の計画に参画する。フィードバックする。

3. 開催経験をもとに修正しながら地域ケア会議を構築する

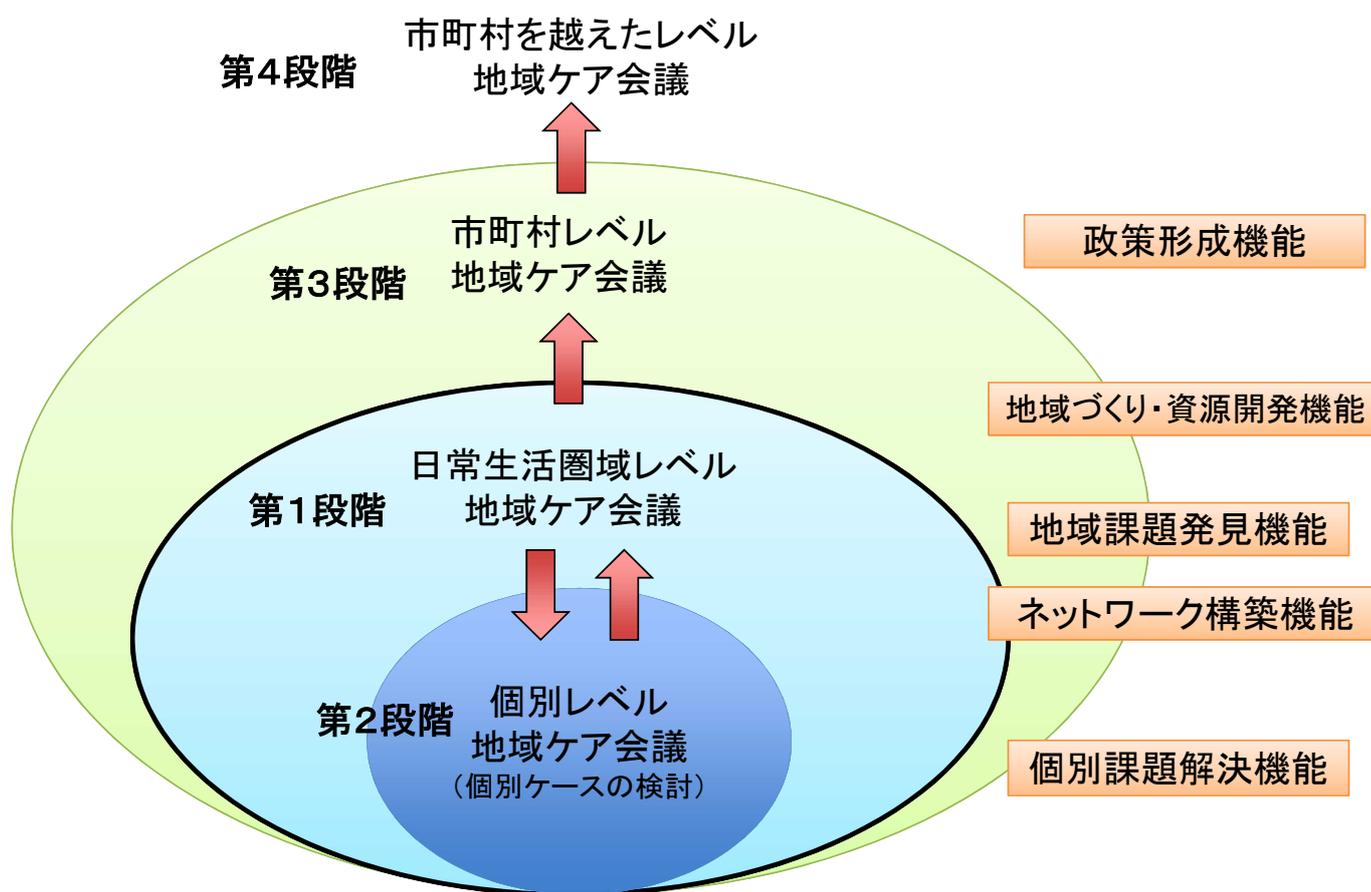
「地域ケア会議運営マニュアル」p39&40

9

地域ケア会議の構築段階例



地域ケア会議の構築段階例



11

個別レベル地域ケア会議の運営方法

1. ケースを選定する

地域ケア会議の目的を踏まえて、地域ケア会議での検討が有効だと考えられるケースを選ぶ。

- ① 支援者が困難を感じているケース
- ② 支援が自立を阻害しているケース
- ③ 支援が必要だと判断されるがサービスにつながないケース
- ④ 権利擁護が必要なケース
- ⑤ 地域課題に関するケース など

市町村の役割：

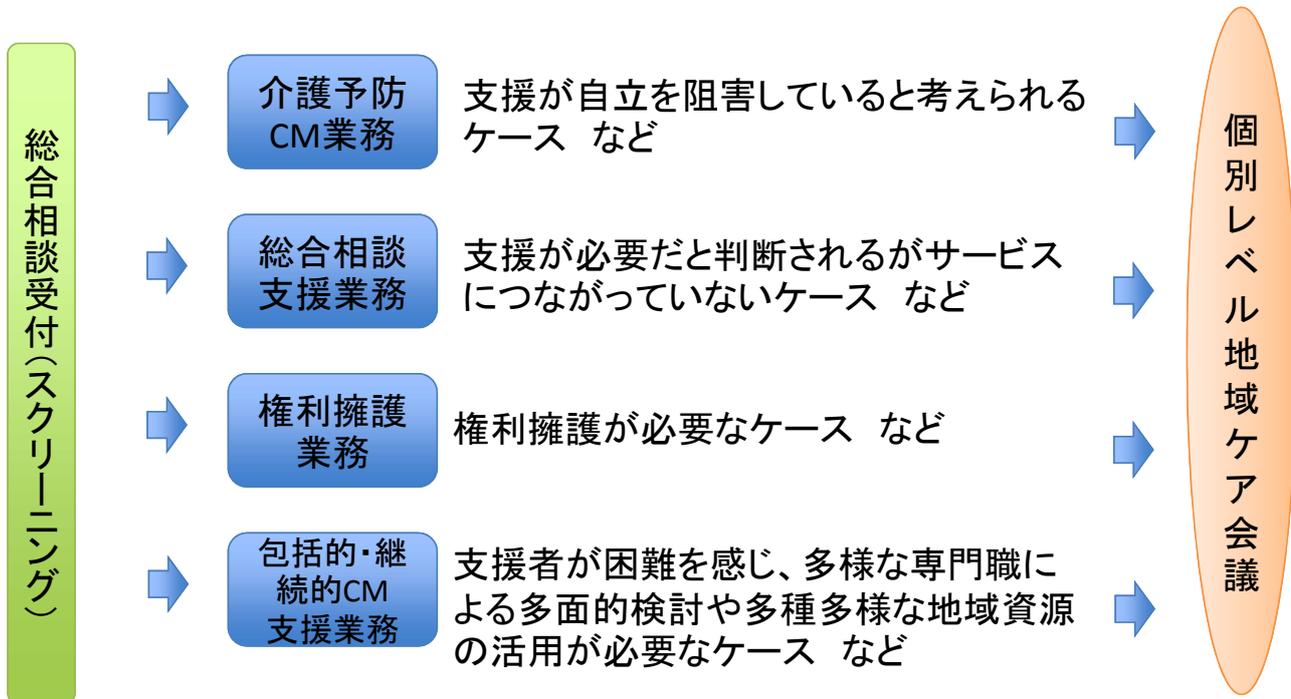
- ・介護保険事業計画や地域福祉計画などで明らかになっている地域課題に関するケースを選定する。
- ・地域の統計、介護保険利用状況、日常生活圏域ニーズ調査、市町村への相談や苦情、介護保険事業者連絡協議会での意見などから、地域の課題だと考えられるケースを選定する。
- ・要介護認定の更新時に、利用者の状態と給付量をもとにサービス提供の過少や過剰が見られるケースを選定する。
- ・ケース選定に必要な情報を地域包括支援センターに提供する。

12

個別レベル地域ケア会議の運営方法

地域包括支援センターの役割:

各業務の一環として、地域ケア会議の目的(支援内容の検討、介護支援専門員による自立支援に資するケアマネジメントの支援、地域包括支援ネットワークの構築、地域課題の把握)から必要性を判断し、ケースを選定する。



13

個別レベル地域ケア会議の運営方法

2. 主催者を決定する

市町村と地域包括支援センター-のどちらが地域ケア会議を有効に主催できるかを判断する。

市町村の役割: 個別レベル地域ケア会議の主催は地域包括支援センターだと固定することなく、必要に応じて主催する。

3. 事例提供者に依頼する

地域ケア会議の目的や成果等を伝えて、事例の提供をお願いします。

市町村の役割: 地域包括支援センターをバックアップする。

4. 会議参加者を選定する

次のような視点から地域ケア会議の目的を達成するのに必要な参加者を選ぶ。

- ・ケースの当事者や家族
- ・介護支援専門員の実践力向上において重要な人物
- ・地域包括支援ネットワーク構築において重要な人物
- ・地域課題を把握し対応を検討するのに重要な人物
- ・参加者の専門性

個別レベル地域ケア会議の運営方法

5. 開催日時を決定し、参加者を招集する

非定例の場合には、会場の確保および開催日時を調整し、選定した参加者に参加をお願いする。

市町村の役割: 主催が地域包括支援センターの場合も、参加者の招集が可能となるようにバックアップする。また、市町村も参加する。

6. 資料を準備する

会議参加者がケースについて効率的に共通認識が持てるように、ケースのフェイスシートなどを準備する。

地域包括支援センターの役割: 事例提供者が資料を準備できるようにサポートする。

「地域ケア会議運営マニュアル」p50&51

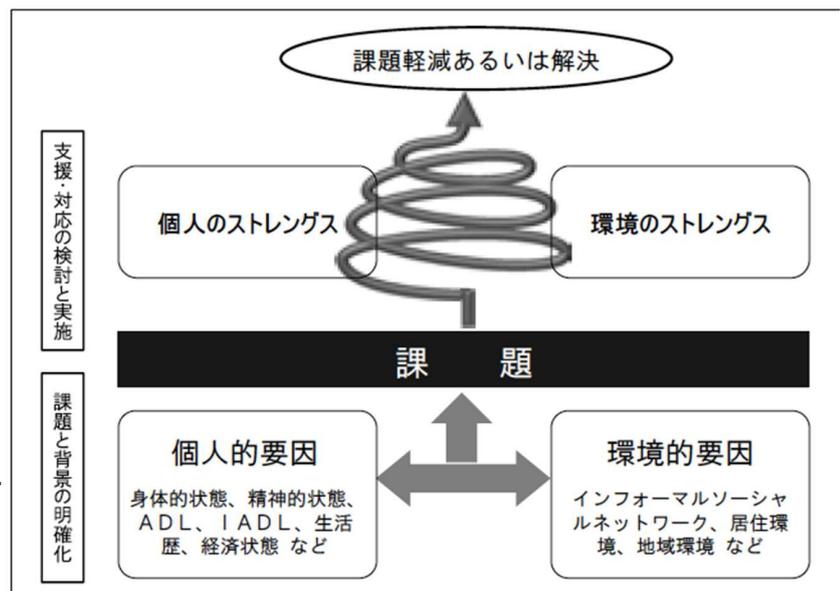
15

個別レベル地域ケア会議の運営方法

7. 地域ケア会議を開催する

主に次の点を行えるように、地域ケア会議を開催する。

- ・個人情報保護について確認する
- ・会議の目的を明確にする
- ・ケース概要を効率的に共有する(資料やホワイトボードの活用)
- ・課題と背景を明確にする(ホワイトボードの活用)
- ・目標を決定する(ホワイトボードの活用)
- ・優先順位の高い課題から、支援や対応方法、および担当者を検討する(ホワイトボードの活用)
- ・モニタリング方法を決定する



実践力を高める会議に

本人、家族の参加は、ケースの内容を踏まえ決定

「地域ケア会議運営マニュアル」p53~58

16

個別レベル地域ケア会議の運営方法

8. 記録を作成する

課題、決定事項、残された課題、有効な支援、地域ケア会議の成果などを記録および管理する。

9. 事例提供者をサポートする

事例提供者が地域ケア会議で検討した支援や対応を展開できるように側面的にサポートする。

10. モニタリングする

- ・会議で決定したモニタリング方法により、情報を収集し、記録する。
- ・必要に応じて、再度の地域ケア会議を開催する。

11. フィードバックする

- ・地域ケア会議の運営について評価し、次の会議に活かす。
- ・地域ケア会議開催の様子や成果を、個人情報に留意し、会議参加者のみならず地域の関係者に周知する。

「地域ケア会議運営マニュアル」p58~60

17

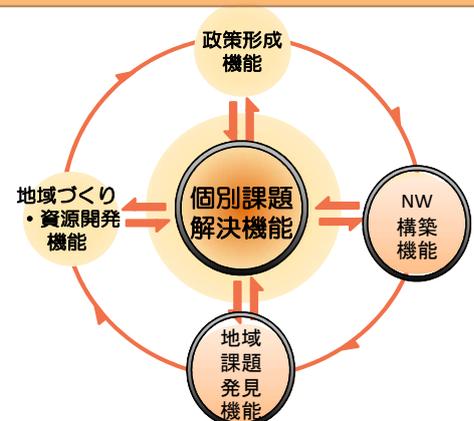
個別レベル地域ケア会議の運営方法

12. 地域課題について議論する場を設ける

地域ケア会議で複数のケースを検討することによって明らかになってきた地域課題について検討する。

市町村の役割: 個別ケースの検討で終わることなく、地域課題を把握し、それらを日常生活圏域や市町村レベルの地域ケア会議につなげていけるように、定期的に地域包括支援センターと議論する場を設ける。

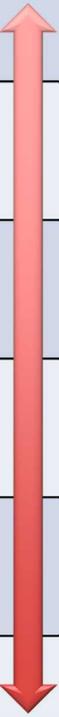
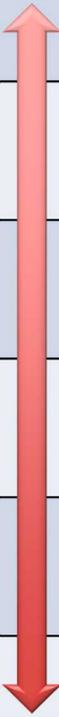
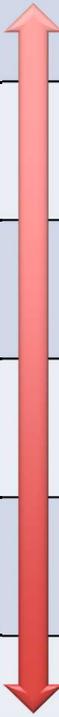
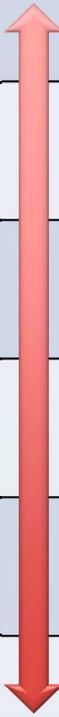
地域包括支援センターの役割: 個別ケースの課題解決に留まることなく、地域課題を把握する目的を忘れず、地域ケア会議での検討ケースを蓄積・整理する。



「地域ケア会議運営マニュアル」p64

18

地域ケア会議で検討したケースの整理例

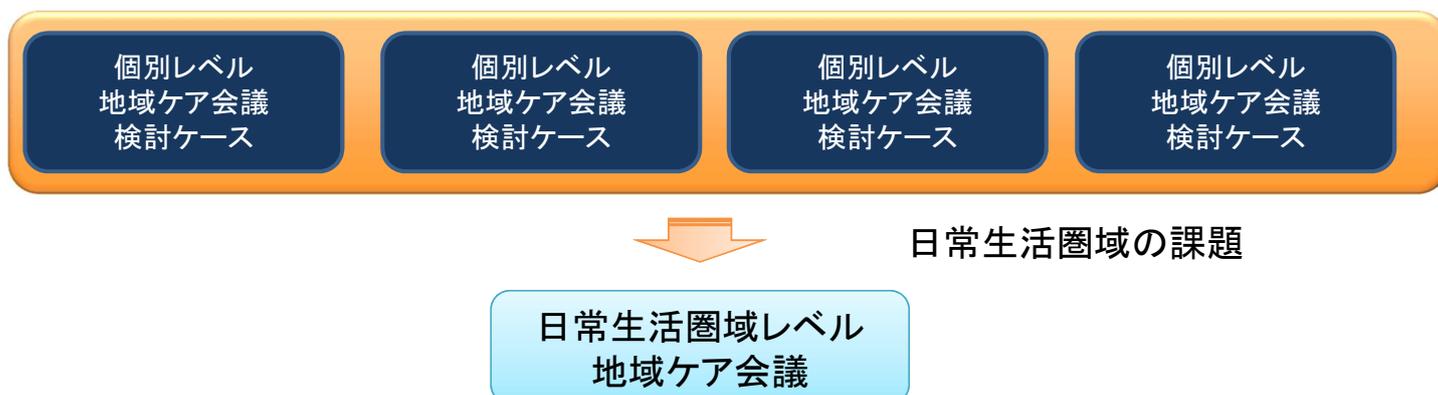
ケース	課題	背景	目標	支援・対応	結果	残された課題
ケース 1						
ケース 2						
ケース 3						
ケース 4						
ケース 5						
ケース 6						

19

日常生活圏域レベル地域ケア会議の運営方法

1. 検討課題を決定する

地域ケア会議でのケース検討で明らかになった日常生活圏域の課題を整理し、総合相談や他の会議等での知見も加えながら、優先順位等を考え、検討課題を決定する。



日常生活圏域レベル地域ケア会議の運営方法

2. 主催者を決定する

市町村と地域包括支援センターのどちらが地域ケア会議を有効に主催できるかを判断する。

市町村の役割: 日常生活圏域レベル地域ケア会議の主催は地域包括支援センターだと固定することなく、必要に応じて主催する。

3. 会議参加者を選定する

課題とその原因を整理し、次のような視点から地域ケア会議の目的や機能を達成するのに必要な参加者を選ぶ。

- ・検討する地域課題に関係する人物
- ・地域包括支援ネットワーク構築において重要な人物
- ・地域づくり・資源開発を検討するのに重要な人物
- ・参加者の専門性
- ・各組織における立場

「地域ケア会議運営マニュアル」p61

21

日常生活圏域レベル地域ケア会議の運営方法

4. 開催日時を決定し、参加者を招集する

非定例の場合には、会場の確保および開催日時を調整し、選定した参加者に参加をお願いする。

市町村の役割: 主催が地域包括支援センターの場合も、参加者の招集が可能となるようにバックアップする。また、市町村も参加する。

5. 資料を準備する

会議参加者が検討課題について効率的に共通認識が持てるように、資料を準備する。

地域包括支援センターの役割: 資料を準備する。

22

6. 地域ケア会議を開催する

主に次の点を行えるように、地域ケア会議を開催する。

- ・会議の目的を明確にする
- ・地域の検討課題を効率的に共有する(資料やホワイトボードの活用)
- ・課題とその原因や背景を明確にする(ホワイトボードの活用)
- ・目標を決定する(ホワイトボードの活用)
- ・対応方法および担当者を検討する(ホワイトボードの活用)
- ・評価方法と責任者を決定する

7. 記録を作成する

検討事項、決定事項、残された課題、地域ケア会議の成果などを記録および管理する。

23

8. 対応を実施し評価する

- ・会議で決定した評価方法により、情報を収集したうえで評価し、記録する。
- ・必要に応じて、再度の地域ケア会議を開催する。

9. フィードバックする

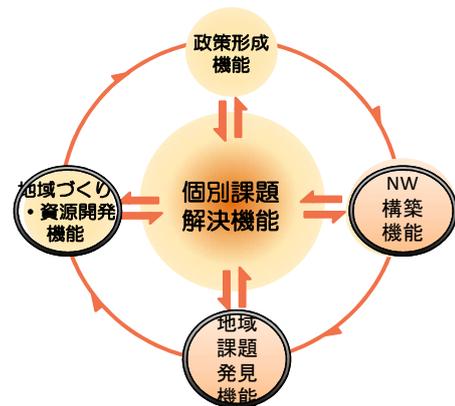
- ・地域ケア会議の運営について評価し、次の会議に活かす。
- ・地域ケア会議開催の様子や成果を、会議参加者のみならず地域の関係者や住民に周知する。

日常生活圏域レベル地域ケア会議の運営方法

10. 複数の日常生活圏域に共通する地域課題について議論する場を設ける

それぞれの日常生活圏域で検討した課題から、複数の日常生活圏域に共通する課題や市町村レベルでの検討の必要性がある課題について確認する。

市町村の役割: 市町村すべての地域包括支援センターと連携して、定期的に議論する場を設ける。



25

市町村レベル地域ケア会議の運営方法

1. 検討課題を決定する

日常生活圏域レベルの地域ケア会議での検討で明らかになった市町村の課題を整理し、市町村すべての地域包括支援センターの総合相談の分析や他の会議等の知見を加え、優先順位等を考え、検討課題を決定する。



26

市町村レベル地域ケア会議の運営方法

2. 主催者を決定する

市町村の役割: 市町村が主催する。

3. 会議参加者を選定する

市町村の役割: 多様な部門と連携する。都道府県と連携する。

4. 開催日時を決定し、参加者を招集する

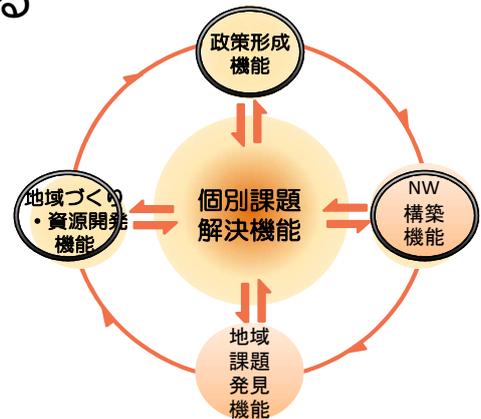
5. 資料を準備する

6. 地域ケア会議を開催する

7. 記録を作成する

8. 対応および評価する

9. フィードバックする



10. 市町村を越えた課題対応が必要な場合には、市町村を越えたレベルの地域ケア会議を開催する

27

「地域ケア会議」を活用した個別課題解決から地域包括ケアシステム実現までのイメージ

- 地域包括支援センター(又は市町村)は、多職種協働による個別ケースのケアマネジメント支援のための実務者レベルの地域ケア会議を開催するとともに、必要に応じて、そこで蓄積された最適な手法や地域課題を関係者と共有するための地域ケア会議を開催する。
- 市町村は、地域包括支援センター等で把握された有効な支援方法を普遍化し、地域課題を解決していくために、代表者レベルの地域ケア会議を開催する。ここでは、需要に見合ったサービス資源の開発を行うとともに、保健・医療・福祉等の専門機関や住民組織・民間企業等によるネットワークを連結させて、地域包括ケアの社会基盤整備を行う。
- 市町村は、これらを社会資源として介護保険事業計画に位置づけ、PDCAサイクルによって地域包括ケアシステムの実現へとつなげる。

